No.13　横須賀市立武山中学校

学校だより

【学校教育目標】
ゆたかな心を　育てる学校
「学力　文化　コミュニケーション」

令和2年 12 月 24 日
発行　校長　佐藤昌俊

新型コロナウィルスで翻弄された一年間を振り返り

臨時休校から始まった令和２年度。行事をはじめとして様々なことが中止や延期、規模縮小となり、生徒たちには本当につらい思いをさせてしまいました。申し訳なく思っています。年度当初、長い休みとなり、学習をどのように保障したらよいか、手探り状態でしたが、５月の途中からは連絡日を設けて、生徒たちに課題の受け取りと提出をお願いし、家庭学習を進めました。この課題は新学期に学ぶ内容について、教科書などを参考にしながら進めるものでした。授業を受けていないのに、新しい内容を自分で学んでいかなければならなかったのは、とても大変だったと思います。それでも連絡日には決められた時間を守って登校してくる生徒の姿を見て、頼もしさを感じたのを思い出します。

６月からは分散登校を始めました。生徒一人一人の思いや状況をまずはしっかりと把握することが大切と考え、授業と二者面談を組み合わせて分散登校をスタートさせました。予想していたように多くの生徒が様々な心配を抱えていました。二者面談をして予想に反したのが、思っていた以上に感染しないために外出していないという事実でした。この頃はまだ、新型コロナウィルス感染症がどのようなものなのか、明確につかみ切れていなかったこともあり、生徒たちも感染防止にとても注意を払っていたようでした。

コロナウィルスとともに生活する「新たな生活様式」となって時間も経ちましたが、世の中もなんとなく慣れてきてしまった感は否めません。もちろん、医学的・科学的に感染リスクや感染防止の方法が明らかになってきたこともあるわけですが、分散登校をしていた時に比べ、感染防止対策もある面では変わってきています。その分、学校における活動もこれまでに近い形の活動が徐々にできるようにもなってきています。例えば、音楽の授業では小グループに分かれ、生徒が前でマスクをつけて歌い、他の多くの生徒は聞き、鑑賞するような授業も取り入れるようにしてきています。学級や学年という大きな規模での合唱はまだまだできませんが・・・・。また、多くの部活動では感染予防を徹底しながら、試合等が行われるようになり、様々な場面で生徒が一生懸命に取り組む姿を見ることもできるようになりました。振り返れば、コロナ禍にあっても、生徒たちは様々な活動や経験を通して成長してきました。「コロナがなければ・・・」などと「たられば」の考えではなく、未来に向けて思いを寄せ、私自身歩んでいかなければいけないなと、生徒の成長に毎日刺激を受けています。

今、日本は第三波の中にあり、状況は予断を許さない状況にありますが、**皆様にとって令和３年がよき年となりますよう、心からお祈りいたします。そして感染防止に努めながらも、明るく穏やかなお正月をお過ごしください。**

私事ですが、お正月の私の重要な任務は、朝、家族全員のお雑煮を作ることです。我が家の仕来りなので・・・・。